



令和6年度 森林総合研究所四国支所公開講演会
「森と人の年代記(クロニクル)」

概要

このままでは地球が危ない ……

1970年代頃から注目されるようになった地球温暖化の一因が森林破壊だと言われています。しかしこれは現代に限りません。古代文明のいくつかは森林の消失とともに滅び、日本だけでなくヨーロッパ諸国でも中世から近代にかけて激しい森林荒廃に見舞われました。人による稚拙な森の扱いが繰り返される中、森はその寛容さで人を守ってきました。

現代の人は森が持つ多くの機能を知っています。それは生物多様性、地球環境、土壌保全機能から水源かん養、文化機能に至るまで多岐にわたっており、そのうちのいくつかは貨幣価値にまで換算され高く評価されています。現代の人は森を適切に、賢く利用しなければならないと気づいているのです。

森と人の関わりかたは時代とともに大きく変化し、両者の距離も近くなったり遠くなったりしてきました。

この講演会では、4つの歴史とともに森と人の関わりかたを振り返り、『森と生きる未来』を考えるきっかけとしたいと思います。

◎詳細は別紙チラシをご覧ください。

問い合わせ

国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所四国支所 支所長 岡 輝樹

<広報担当者> 森林総合研究所四国支所 産学官民連携推進調整監 毛綱 昌弘

<問い合わせ先> 森林総合研究所四国支所 地域連携推進室長 根本 成雄

Email:koho-ffpri-skk@gp.affrc.go.jp

Tel:088-844-1121(代) Fax:088-844-1130

この資料は、高知県政記者クラブへ配布しています。